



# はたけ便り

NPO 法人みんなのプロジェクト  
福岡市早良区梅林6-23-3  
Mail: hatakenoie2020@gmail.com

## 「`親なき後、への違和感」

水野 英尚

障がいのある子を持つ親にとって、「親なき後」というテーマは必然的な課題であり、こうしたテーマを掲げた運動が常になされてきました。親たちの「この子を残して先には行けない！」や、「私がいなくなったら・・・」という主張は、草の根的な運動となり、人々を動かす原動力となってきたことでしょう。現在の障がい福祉制度も、そうした運動によって`制度化、されてきました。私も境遇を同じくするものとして、先輩たちの労苦により勝ち得てきた福祉サービスを、何の苦勞もなく恩恵を受けているわけですから、敬意をもってしかるべきことなのですが、しかし、私は「親なき後」が語られることに対して、`違和感、を感じてしまうことがあります。親にとってのわが子はいつまでも`子ども、であり続け、`障がい、という特性のあるわが子の心配事が尽きない、とする心情はよくわかります。しかし、親と子、その双方の人生はそれぞれ`オリジナルな人生、であるはずなのに、「親なき後」が語られる時は、親も子も`一括り、とされているように感じます。

人間の成長におけるプロセス(過程)は、子どもが`人格、を持つ一人の人間として家族や社会から受け止められ、そうした関係性の広がりの中で`自立(自律)、した暮らしは成立していくものです。ところが、障がいの重い人たちの暮らしではそうしたプロセスが抜け落ちてしまい、「親なき後」というワードが浮上してくると、親や家族の`介護力、の問題が全てで、介護が`できる、`できない、という二者択一によって、彼(女)たちの生活の場が決定されてしまいます。障がいの重い人たちの暮らしの中で感じることは、`生活、という面で圧倒的に経験が不足しているということです。洋服、食事、住まい、ヘアスタイルや音楽等々…自分の好みを選択できる`自由、がありながら、そもそも`自由、ということすら、経験がないと言えます。当然、経験が無いわけですから、`選択する、ということも戸惑っているかもしれません。それは、彼(女)たちの障がい



重いから、自分で選ぶことなんて無理だとされてきたこともあるでしょう。時として彼(女)たちの姿は、全てを諦めて自分に閉じ籠り、表情乏しく「全てなすがまま」「全部お任せ」しているように感じる場合があります。そして、それが生きる術であり、自らの身を守ることであり、他者から介護を受け入れて生活する`知恵、なのかもしれません。しかし、そんな彼(女)たちが生活の中で色々な経験をし、豊かに感じることで、自らを开花させていく姿を見たいのです。「SharedHome はたけのいえ」での暮らしの体験は、人生の成功も失敗も、喜びも悲しみも、これまで体験したことのないことだって、ここでなら体験できる場所になって欲しいと思います。体験をシェアし支え合う仲間がいて、見守る人たちがいるからこそ可能にできる、一人一人のオリジナルな人生へのプロセスを互いに大切にしていきたいのです。そして、いつの日にか親たちや彼(女)たちの人生から、「親なき後」ということが`スっと、消えてしまうような、そんな人生を心から願い続けています。

## 「SharedHome はたけのいえ」ボランティア募集！！

～あなたの`お時間、少しだけないでいいでしょうか？～

連絡先:090-7921-7584(水野)

サポーター会員の登録ありがとうございました。

野口瑞江様、松島紗穂様、古川一喜様、古川一京子様、久保田正明様、久保田富子様、花田光洋様、高良研一様、G.W バークレー様、小材純子様、梅崎良則様、大石和可子様、倉光比真吉様、倉光比斗重様、児玉隆志様、児玉洋子様、安東孝洋様、安東昭子様、古川新一様、古川かをる様、石橋由美子様、伊原幹治様、中村知子様、藤田直子様、伊東由美子様、下釜浩平様、野上小百合様、井手口拓也様、犬養光博様、前野和代様、渋谷瑞恵様、北崎小百合様、吉田恭子様、船丘依子様、原田和代様、原田容子様、西田恵利子様、秀島正博様、秀島友子様、秀島慶寛様、下釜保夫様、訪問看護ステーション紙ふうせん様 (順不同)

ご寄付をありがとうございました。

倉光陽大様、倉光登喜子様、水野ひかり様、下釜保夫様、西田恵利子様 (順不同)